

地域資源利活用ラボ

Local Resources Utilization Laboratory

代表： 当麻 哲哉、吉田 篤生※ 教員： 保井 俊之、米田 巖根



概要

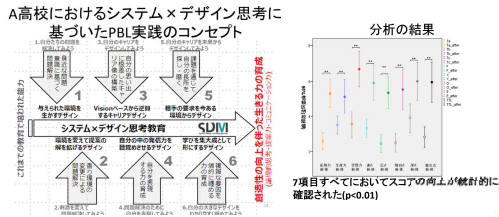
日本は、南北に3,500kmの海岸線に囲まれ、380,000㎡の国土の68%が森林である海洋森林資源大国です。とくに平野部外縁部から山間地にかけての中山間地域は、古来から農業産出ばかりでなく、木材や木炭など豊かなエネルギー供給源となって、自然との密接な関わりを持つ文化に築きあげてきました。

500年前の変革をはるかに凌ぐ大変革期に突入した現在、エネルギーも食料も全てが自給自足可能な社会の実現が現実のものとなるエクサスケール革命は、この日本の風土のあらゆる場所で花開くと考えています。

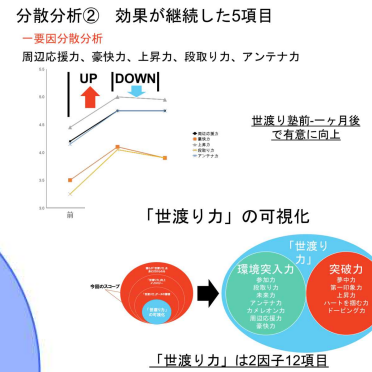
「地域資源利活用ラボ」は、こうした我が国の自然環境に恵まれた農山漁村地域を、21世紀の新たな生活様式を可能とする国土のフロンティアとして位置付け、隣接する中小都市との連携を進めて、地域企業と一体となって誇りの持てる自立的な圏域とすることを研究テーマとしています。

研究事例

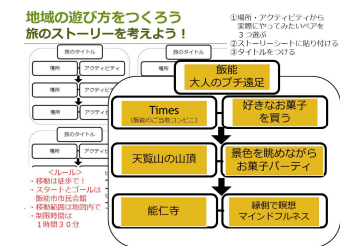
【高校教育×SDM】 システム×デザイン思考型教育の 効果検証



【脱ストレス×世渡り力】 世渡り力メソッドロジー開発のための 「世渡り力」の可視化

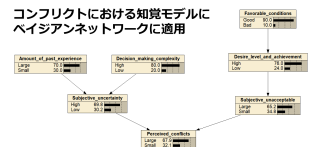


【観光×宝探し】 地域の遊び方づくり ワークショップの設計



【地域×若者×旅行】 若者向けエコツアーの PR戦略

【地域×合意形成】 地域活性における コンフリクトの解消



※吉田篤生 SDM研究所顧問(吉田篤生会計事務所 所長・税理士)



吉田篤生は、40年余、中小企業の現場で常に経営者に寄り添い、経営におけるあらゆる問題の解決に尽力してきました。経産省より「経営革新等支援機関」の認定をはじめ各種検討会委員を歴任の他、総務省「政治資金監査人」や金融庁の進める企業の「事業性評価アドバイザー」資格認定委員として金融機関と協力して企業の総合コンサルティングを行っています。

ラボ代表よりご挨拶:SDM教授 当麻哲哉



当ラボは、2009年秋に設置されて以来、森林などの資源を活用して地域が自活する構想提案などを行ってまいりました。2015年7月、慶應SDMが飯能市と連携協定を締結して地方創生研究を受託、当ラボを研究母体として具体的な活動がスタートしました。豊かな自然有しながら都心から遠くない飯能市を、これからの都市近郊モデル地域とすべく貢献してまいります。